

介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ⑨

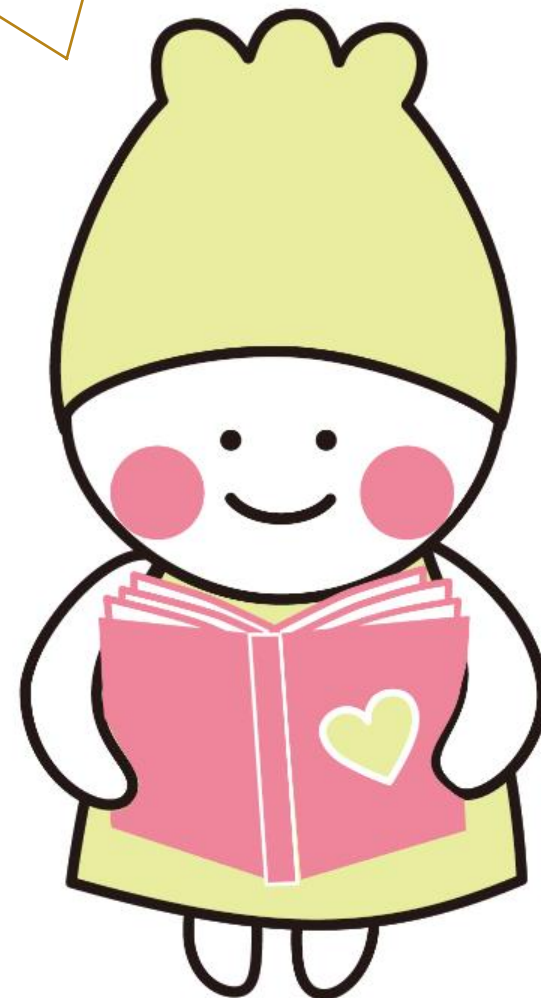
「服薬管理が出来て、
薬の飲み忘れがなくなった」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / ADL /

家事・IADL / QOL / 介護状況

利用者さんが
どんな風に元気になったのか
読んでみるまも♪



スライド全6枚

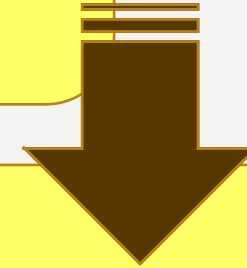
【事例情報】

○69歳 ○男性 ○介護度1



【Before】令和3年1月頃

退院後、ご本人は定期的を受診して薬の処方を受けていたが、受け取った薬を袋に入れたまま床に置いて過ごしていた。遠方から妹さんが来た際に薬カレンダーにセットして行くこともあったが、所々薬が抜けてるような状態だった。この時点でヘルパーの服薬確認の支援はなかったが、ご本人へ薬について確認すると曖昧な返答で、床置き薬の袋が徐々に増えていく状況。担当ヘルパーからも「薬は飲めていないのではないか」と心配する声が多くなってきた。



【After】令和3年2月頃

訪問看護が入り、デイサービスとヘルパーが服薬確認・声掛けを行うことで、平日について確実に内服が可能となった。また、服薬に関する環境が整ったことで、支援者が訪問しない日（土日）についても、薬カレンダーの薬をご本人が服薬でき、殆ど飲み忘れはれはなくなった。万が一、土日の飲み忘れがあった場合は、ヘルパー訪問時に確認し連絡ノートへ記入後、訪問看護師に報告する体制を整えることができた。



経過

阻害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>体調が悪くなると、かかりつけではない病院を受診することもあり、都度新しい薬が増えていた。</p>	<p>ケアマネジャーの調整により、訪問看護を利用。</p>	<p>訪問看護による服薬管理。訪問看護師が薬カレンダーに、薬を定期的にセットし状況を把握することで、確実に服薬し、体調が安定する。</p>
<p>ご本人は「自分で出来る」と服薬に関して自信を持っていたが、実際には物忘れが増え難しくなっていた。</p>	<p>ヘルパーによる、服薬の声掛け確認と、翌日のデイサービスへ持っていく薬の準備を共に行う。</p>	<p>週1回の訪問看護、週2回のヘルパー訪問日、週2回のデイサービスでの確実な服薬。環境を整え、習慣化することで支援者の訪問が無い土日のご本人が服薬できる。</p>



事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
アセスメント 担当者会議 (令和3年2月)	当初、訪問看護利用とヘルパーによる服薬確認の予定だったが、デイサービスの職員より、デイに持って行く薬の用意をご本人としてほしいとの希望があり、話し合いの上追加となった。
報告・連絡・相談	ご本人は何か確認しても「大丈夫」「必要ない」との返答が多く、訴えが少ないご利用者だったが、活動後の担当ヘルパーは、時にセンターへ立ち寄るなどして必要な報告を欠かさなかった。ヘルパーとサービス提供責任者間の報告・連絡・相談によって、ご利用者の現状と問題点を把握でき対応することができた。



💡事例へのコメント💡

ご本人の全体像や日常生活の観察から、服薬管理の課題に気づき、関係機関と情報共有し、必要な対応の実現という結果につなげることができた好事例といえます。訪問看護、さらに通所先とも連携して内服の習慣化を実現できたことは、他事例にも提案できる方法ではないでしょうか。ご本人は服薬について「自分でできる」と自信を持っていただけに、介入は簡単ではなかったかもしれませんが、**チームワークの良さも課題解決に一役買った**のではと感じました。

一連の対応から、担当ヘルパーさんは関係機関から一層の信頼を得たことと思います。多職種力で課題解決できたエピソードは、互いの信頼関係や職員の達成感に大きく寄与します。たとえ依頼内容に含まれないことでも、**利用者様に関する気づきは、この事例のように躊躇なく共有**できると良いですね。

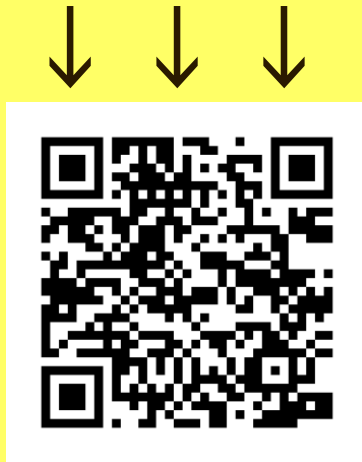
【札幌市社会福祉協議会 調査課】



私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して
ほしいまも

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
介護事業部



まもりん